

北区飛鳥山博物館だより

2022.9.20

ぼいす 49

縄文料理と 弥生ごはん

秋期
企画展

観覧無料



縄文時代の銅



弥生時代の炊飯具

会期：令和4年10月29日(土)
～12月11日(日)

開館時間：10:00～17:00

休館日：毎週月曜日 会場：特別展示室

縄文料理と弥生ごはん

貝塚を掘るとそこからは貝殻だけでなく、動物の骨が出土します。土をふるいにかけて小さな魚の骨や鱗もみつかります。低地の遺跡からは水を多く含んだ土の中からドングリが出土します。そして、竪穴住居の中からは炭化した種子や穀物が発見されます。遺跡を丹念に調べると当時の人の食料に関するものが出土し、どんなものを食べていたのかがわかるのです。そして、これらを収穫したり、栽培したり、そして調理をする道具たちが数多く出土しています。

今回の展示は縄文人が、弥生人が、どんなものを食べていたのか、そしてどんな道具を使って食材を確保し、どのように調理をしていたのかを探る展示です。縄文人は海や川で貝や魚を捕っていました。森では狩りをし、ドングリなどを採取していました。そしてダイズやアズキといったマメ類を栽培していることが最近わかってきました。一方、弥生人は水田を作り、イネを育て、コメを収穫していました。もちろんイネの栽培だけでなく、狩りや漁を行っていました。

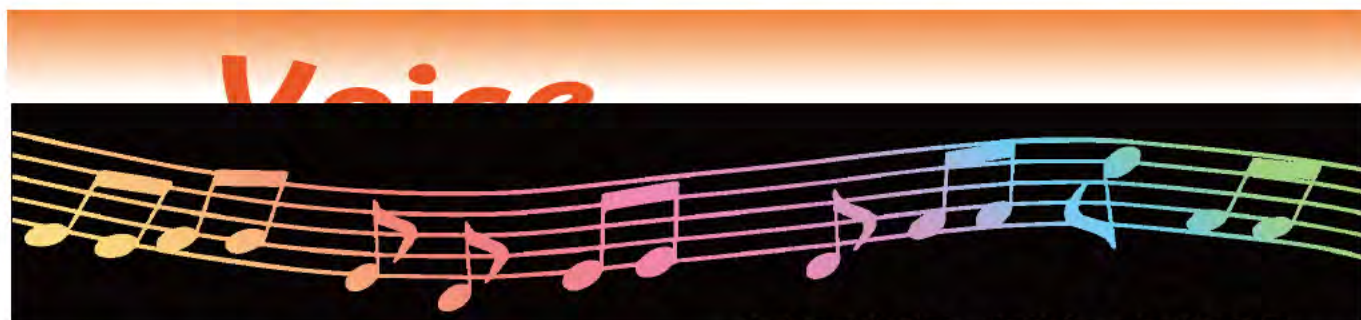
今回は縄文時代と弥生時代の食にまつわる道具や食材を展示します。縄文人や弥生人が四季の中でどのような活動をし、どのようなものを食べていたのかをこの展示を通じて知っていただけたら幸いです。(鈴木)



炭化したお米



縄文時代のナイフ



「東京は昔、海だった」の話

埋蔵文化財の仕事をする中で、よく聞かれることの一つに「東京は昔、海だったんでしょ?」があります。さらに「だから遺跡なんて、あるわけない」と続けられると少々厄介で、先日も遺跡内での住宅建築の基礎工事に立ち会った際に、作業員の人とこの話になりました。

この声に応えるうえでの問題は、「東京」とはどの範囲を、「昔」とはいつを指すのかということでしょう。北区の場合は、江戸時代以降の臨海部の埋め立てとは関わりないので、ここでいう「昔」は「縄文海進」の時期ということになるでしょう。そのピークは縄文時代前期で、海水準は現在よりも+2~3mまで上昇し、関東平野の内陸部にまで海水が侵入しました。とはいえ、これはあくまでも低地部での話。東京の全域に当てはまるものではなく、台地部は当然陸地であり、当時の遺跡も数多く形成されていますし、また低地部においても、海の範囲が退き陸地化が進んで以降の時代の遺跡はいくつも存在します。

「東京は昔、海だった」からといって、「遺跡なんて、あるわけない」とはならないのです。(牛山)

春期 企画展

「幻想の江戸 —異文化のまなざしに映った他者・表象・言説—」

イベントレポート

幕末に北区の地を訪れた外国人のまなざしに映った地域像と、人々との交流のあとを展覧する企画展を、令和4年3月23日(水)~同年5月14日(土)を会期として開催いたしました。



展示をご覧になった方から、アンケートや SNS を通じて多くのご感想が寄せられました。その一例に、「展示がとてもキレイです」、「うっとりした」などの印象が聞かれるとともに、「内容が少し難しい」というご意見もいただきました。また「幕末に欧米人が王子に来たことが分かった」、「景観の美しさや、もてなしに対する外国人の賛辞が興味深かった」、「王子がまるで妖精の住むよう

な場所だったと記されていて、不思議な感じがした」など、エキゾチックなトラベルライティングへのご指摘もありました。その一方で、「女性の無垢が強調されるなどの外国人の視点が奇妙に感じた」などの当時の西洋のアジア観への言及も見られました。さらに「この展示が地域自慢に陥らずに、西欧による文化の審級化などを知ることができ、骨太な内容だった」、「よくありがちな地域自慢の展示ではない深い内容だった」などのご意見も頂戴いたしました。展示意図がお客様に伝わったことを感じ取ることができ、展示を担当してほっとしました。



本展は会期 46 営業日で、20,664 人のご来場がありました。(石倉)

文化財めぐり (王子編)

ついに、飛鳥山博物館の講座が再開されました！コロナウイルス感染防止のため、令和2年3月以来中止していた博物館講座が2年ぶりに再始動です。満を持しての第一弾は、「文化財めぐり(王子編)」でした。都指定有形文化財「飛鳥山碑」や重要文化財「旧醸造試験所第一工場」の見学をはじめ、王子近辺の文化財(もちろん、飛鳥山博物館の展示も!)を解説付きで、1日かけてめぐる野外講座でした。コロナ対応として通常より少ない人数での開催となりましたが、16名の皆さんと歩きながら、「講座ってこんな感じだったよなー」と担当学芸員としても、久々に講座の醍醐味を感じていた次第です。

とはいえ、今後は、コロナウイルス感染への注意を払いながらの講座・講演会の開催となります。参加者の皆様には、マスク着用のご協力をいただくなど、不便をおかけしながらの講座となることは否めません。解説する時に大きな声を出さずに済むよう、今後の野外講座では、イヤホンガイドを使用することにしました。実際に使われた皆様からどのような反応があるか不安でしたが、おおむね好評をいただき、今後の講座開催に自信が持てました。一方、参加者アンケートで「休憩が少なかった」との感想を複数頂きました。久々の講座で、内容を盛り沢山にし過ぎました…本当にゴメンナサイ。ご参加ありがとうございました。そして、皆様と講座で一緒にできる幸せを思いながら。(山口)



イベントレポート

大地・水・人

【御殿前遺跡から見つかった寺院墓地】

高坂 勇佑（当館学芸員）

遺跡と聞くと真っ先に思い浮かぶのは、武蔵国豊島郡の郡役所である豊島
の 57 年（1982）の第 1 地点の調査以来、豊島郡衙に関連する遺構や遺物
が出土し、古代における豊島郡衙の様相が明らかになりつつある。

御殿前遺跡の調査で見つかったのは豊島郡衙に係るものだけではない。あ
らゆる時代層が検出されている。なかでも、中世から近世にかけての墓地の跡も検出されているのである。そ
のなかで、西ヶ原 1-30 地点と 1-31 地点の調査成果に注目し、北区における中近世
の墓地について見ていきたい。

西ヶ原 1-30 地点と 1-31 地点は隣接した調査地点であるが、両地点合わせて 100 基以
上の土壌墓（土を掘って穴をつくり、そこに遺体を納めた遺構）が検出されている。こ
の土壌墓の平面形は、大きく長方形と円形に区分することができる。それらの規模を
測ると、長方形の土壌は長軸約 1.00 ～ 1.40m、短軸約 0.50 ～ 1.00m、深さ約 0.40 ～
0.80m、円形の土壌は長軸および短軸が約 0.70 ～ 0.80m、深さ約 0.80 ～
1.00m 程度、なかには 1.00m を超える深いものもある。

長方形と円形の平面形と規模の違いは、遺体を埋葬する時の方法の違いを表している。長方
形は側臥屈葬（遺体の手足を折り曲げ、横を向かせた姿勢）で遺体を埋葬したもの
であり、土蔵を用いたような痕跡は確認できないため、遺体を直接土壌に納めたと考
えられる。円形の土壌は座葬（座った姿勢）で遺体を埋葬したものであり、「早桶
」と呼ばれる木棺に遺体を納めて埋葬した。

また、土壌墓からは六道銭（六文銭）と呼ばれる、副葬品として納めた銭貨が発見される
ことが多く、種類を調べることで土壌墓が形成されたおおよその年代を推測するこ
とができる。ここで、長方形および円形の土壌墓から出土した銭貨の種類を調べてみると、
長方形の土壌からは中世の渡来銭が、円形の土壌からは寛永通宝が出土していることがわ
かった。つまり、長方形の土壌は中世に、円形の土壌は江戸時代に形成されたものである
ことが明らかになったのである。したがって、御殿前遺跡で検出された 100 基を超える土
壌墓は中世から近世にかけて継続して形成されたものであり、時代が移り変わることによ
って埋葬の方法が側臥屈葬から早桶を用いる座葬へと変化したのである。

江戸時代の地誌である『御府内場末往還其外沿革図書』を確認すると、調査地点は無量
寺の寺域に属している。つまり、御殿前遺跡で検出された墓跡は無量寺の境内に造営さ
れた墓地に属するのである。无量寺は現在、調査地点の南側に位置しており、境内から 14
世紀初頭の土器が出土したという記録が残っていることからも、少なくとも鎌倉時代後期ま
では墓地の造営が開始されたと考えられる。そして、町時代を通して江戸時代に至
るまで墓地の造営が継続されたのである。

このように、御殿前遺跡には各時代における人間の活動痕跡が連続と刻まれているのである。



中世の土壌墓（西ヶ原 1-30 地点・73 号土壌）

常設展示活用展示 「700年の時を超えて -王子村と王子神社-」展によせて

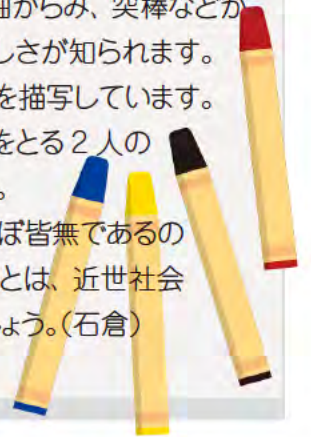
今回、展示した本図は、19世紀初期の王子権現社と王子稻荷社の境内を、細密画のように克明に描いた作品です。構図を見ると画面中央に王子権現の楼門と田楽が演じられる舞殿を、画面右下には王子稻荷社の鳥居と石段および拝殿を配しています。画面上部には下記の説明文が記されています。

「王子之両社頭 熊野三所をくわんじやう申しし御やしろなり、楼門・神楽堂・拝殿・本社とならひてもものふりたる宮立なり、うしろのながれを滝野川といふ、尤其名たかし、又すこしへだたりて稻荷の御やしろあり、関東の惣祠として毎年十二月廿日、八ヶ国の狐此所にあつまりて火をともす、此火にしたがひて田畑のよしあしをしるといへり」



「絵本江戸桜 王子之両社頭」北尾政美画 享和3年(1803) 蔦屋重三郎板 当館所蔵

王子権現社楼門の脇には番所があり、そこには刺股、袖がらみ、突棒などが立て掛けられています。將軍家祈願所の権威を示す厳めしさが知られます。その横には、武士身分の男性がまさに参詣に来たところを描写しています。その一方で王子稻荷社境内の参詣風景を見ると、水垢離をとる2人の男性や笠を被った参詣人など、庶民的な姿を見せています。江戸時代の浮世絵系版画で、王子権現社を描く作例はほぼ皆無であるのに対し、王子稻荷社が数多く浮世絵の画題となっていることは、近世社会における両社の参詣主体の違いを反映したものといえましょう。(石倉)



北区の文化財紹介 歴史をつなぐ人どもの

おうじでんがく 王子田楽 (区指定無形民俗文化財)

「北区指定文化財」というとなんだか難しそう…ですので、言いかえましょう、北区の歴史や文化を伝えてくれる大切なもの、次の世代に伝えたいもの。なんだかホッコリしませんか?そんな北区の宝物の第1号になったのが、王子田楽(昭和62年4月1日指定)です。

王子田楽は、王子神社で8月に行われる例祭で奉納されます。境内に設けられた舞台上で、花笠をかぶった8人の踊り手が、鼓・ササラ・太鼓を鳴らしつつさまざまにフォーメーションを変えながら躍ります。王子田楽は、中世芸能「田楽舞」のひとつで、戦国時代には躍られていたものと推定されています。江戸時代には、江戸市中から多くの観衆が集まり、花笠の奪い合いも起こりました。王子の夏の風物詩として人気だった王子田楽ですが、戦時下、昭和19年には例祭が中止され、翌年の空襲では衣装・楽器が焼失してしまいま

した。いったんは途絶えた王子田楽ですが、昭和57年、地域の人々によって田楽復興の取り組みが始まります。戦前の田楽経験者が覚えていた笛の調べや躍りを頼りに、他の地域の田楽も参考にしながら、ついに昭和58年8月7日に王子神社社殿内で復興田楽の奉納試舞が行われました。40年ぶりに王子田楽が復活した瞬間でした。(田中)



王子神社例祭での王子田楽



モノの記憶

— 収蔵品が語る物語 —

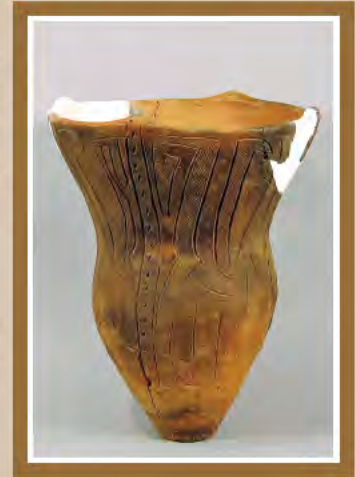
西ヶ原貝塚の埋甕

胴部分がくびれたスタイリッシュな形と、細長い区画の中にびっしりとつけられた縄目文様が印象的なこの土器。深鉢形をした縄文土器で、北区西ヶ原貝塚から見つかりました。

直径 46cm、深さ 50cm ほどの土坑（素掘りの穴）内にほぼまっすぐに立てた状態で埋められていたものですが、その中には小さな小さなヒトの骨が入れられていました。胎児あるいは生まれて間もない頃に息を引き取った子のものとみられています。

土坑が掘られた場所は、竪穴住居の入口部分です。家族が毎日出入りする場所にあえて亡骸を葬る意図はどこにあったのでしょうか。亡骸を入れた埋甕の上を母親が行き来することで、再びその身体に子が宿ることを願ったことだったのでしょうか。はたまた、人が通るたびに硬くしまっていく土になぞらえて、今度は丈夫な身体に育つようにとの願いを込めたことだったのかもしれません。

この土器の表面は滑らかで、つけられた縄目文様もとても繊細なものです。子どもの死を悼んだ人の手で、丁寧に作られたものだったと考えられます。西ヶ原貝塚出土の埋甕からは、縄文人の死生観とともに、今も昔も変わらない「人を想う心」が垣間見えます。（安武）



写真で見るあの日、あの時

「激混み！ 70 年前の七五三」

この写真の中では何が起きているのでしょうか？場所は神社のようです。たくさんの人がいて、みなさんハレ着をまとっています。中央の女性が持つ長い袋のようなもの…これは千歳飴でしょうか。

この写真はちょうど 70 年前の昭和 27（1952）年 11 月 15 日、志茂の熊野神社で撮影されたものです。11 月 15 日といえば、そう七五三です。それにしても、写真に写る子どもの多いこと！それもそのはず。昭和 27（1952）年に数えて 7 歳というと、昭和 21（1946）年生まれ、5 歳は昭和 23（1948）年生まれ、3 歳は昭和 25（1950）年生まれです。この写真に写る子どもたちは、まさに第一次ベビーブームに生まれた子どもたちなのです。七五三の日に、神社が人であふれかえっているのも頷けます。

さらに、よく写真を観察すると、背中に幼子をおぶっている人が多いこともわかります。このころの合計特殊出生率はおよそ 2.98 ~ 4.54 と、高水準ですので、現在よりも兄弟が多いことも写真の様子からうかがえます。

さて、写真からわかることに統計上の数字で裏付けをとりましたが、この写真に写る子どもたちの 70 年間は、けっして数字では表せません。この子どもたちは 70 年間どんな人生を歩んだのか、そして、今の子どもたちがこれから 70 年どのような人生を歩むのか、熊野神社の社殿だけが、変わらず見守ってくれるのでしょうか。（工藤）



手川文夫氏撮影

学芸員の本棚

『東京裏返し 社会学的街歩きガイド』

「これからの注目は「都心北部」！黄色い帯に大きくプリントされたキャッチコピーに惹かれ、思わず手に取ったこの本は、どうやら7日間かけて東京北部を巡るまち歩き本らしい。フィールドになっている場所を確認してみると、上野、秋葉原、本郷、神保町、湯島、谷中、浅草などなど…。この中に「王子」を発見！散策のガイドとすることに決めました。

本書では、都市論やカルチュラル・スタディーズを専門とする著者が都市化の中で埋もれてしまった歴史を探るようにまちをながめ、その姿を描き出しています。一般的なまち歩き本と異なる点は、1つのトピックごとに、社会学者の視点からこれからの東京への提言が語られているところでしょうか。つまり、本

吉見 俊哉
(集英社新書、2020年)

書は古きを知るだけでなく、「新しい東京を創出する」ための案内書にもなっているのです。

また、著者はミヒャエル・エンデの『モモ』に出てくる時間論を例にとり、私たちのまち歩きに「スローダウン」を取り入れることをおすすめします。これは、長い時間をかけて折り重なる都市の「歴史の積層」を見つめ、再発見するのにはぴったりの方法です。

本の中で、王子にどのようなまなざしが向けられているのかが、読んでみてのお楽しみに。

「周縁地化」された都心北部の近代を捉えようとすると、本書のキーワードである「東京」を「裏返す」意味がずっと胸に落ちてくるのではないのでしょうか。(佐々木)



博物館インフォメーション

◆博物館実習生が大活躍！

8月9日(火)～21日(日)まで、博物館学芸員資格の取得を目指す実習生4名を受け入れました。

今年は、復活した夏休みわくわくミュージアム★2022の催し物準備のほか、常設展示室の解説パネル作成や、資料整理、SNSの運用など、あらゆる博物館の業務に携わりました。実習生のみなさん、暑い中お疲れ様でした！



◆人物往来

本年3月31日をもって、任期満了にともない大久保輝優学芸員が当館を「卒業」いたしました。1年間という短い期間でしたが、資料整理や動画作成などで大いに活躍してくれました。

◆北区の昔を伝える資料や写真を探しています！

当館では、北区内で使われていた生活用品や、北区内を写した懐かしい写真など、昔の暮らしぶりがわかる資料を探しています。「こんなものでいいのかしら？」という方も、ぜひ当館までご一報ください！(TEL: 03-3916-1133)。皆さまからのご連絡をお待ちしております。

「ようやく」立てた
未知の途
みいろは 博物館
歌留多
学芸員リレーエッセイ

今年の5月よりようやく当館主催講座が本格再始動いたしました。講座を行うたび、講座を待ち望んでくださった多くのお客様の温かいお声をいただいております。

そんな中、5月22日に行いました「万葉集からたどる人々の暮らし」。こちらは、実は私の初担当講座です。3回にもわたる中止を経て、ようやく開催することができました。緊張しやすい性質の私ですので、きっとお聞き苦しいところもあったでしょうが、「わかりやすかった」「聞きやすかった」と温かいお声をいただき、本当にうれしく感じています。

着任して4年目。本来ならこの講座が実際に開催を予定していたのは、実に2年前。「ようやく」講座を開催できる。「ようやく」皆様にお会いできる。いったい何度この「ようやく」という言葉が出るのか…。講座を開催できた今、改めてこの「ようやく」という言葉の重みを感じずにはいられません。

講座を経て、ようやくこの北区飛鳥山博物館の学芸員という途の出発点にきました。これからもその歩みを止めぬよう、しっかり精進してまいりたいと思います。(谷口)

利用のご案内

【開館時間】 午前10時～午後5時
※観覧券の発行は午後4時30分まで

【休館日】 毎週月曜日(月曜日が国民の祝日・休日にあたる場合は開館し、直後の平日に振替休館)
年末年始(12月28日～1月4日)
※このほかに臨時休館があります。

【常設展示観覧料】 ★年齢が確認できる証明書をご提示ください。

	個人	団体	三館共通券
一般	300円	240円	800円
高齢者 (65歳以上)	150円★		
小・中・高	100円	80円	320円

・小学生未満は無料
・団体扱いは20名以上
・障害者手帳をご提示いただいた場合は、当館の一般券が半額となります。
(障害のある方一人につき、介助者一人まで観覧料が免除になります。)

・令和4年7月12日から飛鳥山3つの博物館の三館共通券の販売を再開しました。
・三館共通券は当館のほか、渋沢史料館・紙の博物館をご覧ください。



交通のご案内

- ・JR京浜東北線 王子駅南口より徒歩5分
 - ・地下鉄南北線 西ヶ原駅より徒歩7分
 - ・東京さくらトラム(都電荒川線) 飛鳥山停留場より徒歩4分
 - ・都バス(草64、王40系統) 飛鳥山停留所より徒歩5分
 - ・Kバス(北区コミュニティバス) 飛鳥山公園停留所より徒歩3分
- ※飛鳥山公園に隣接している有料駐車場がございます。

編集後記

ぼいす49号をお届けします。
今期からようやく講座を復活させることができました。引き続きできるだけの対策を講じながら、安全に博物館を楽しんでいただけるよう努めてまいります。
さて、次回発行のぼいすはいよいよ50号!区切りの号ということで何か特集が組まれるのでしょうか?をうご期待!下半期も博物館でお待ちしています! (佐々木)

秋 10月～12月

- 展示
- ◆ 特別展覧会
「第21回人間国宝奥山峠石と北区の工芸作家展」
..... (9/10～10/10)
・人間国宝に学ぶ!鍛金体験講座..... (9/24)
・金工に親しみ学ぶ講座..... (10/9)
 - ◆ 秋期企画展
「縄文料理と弥生ごはん」..... (10/29～12/11)

- 講座
- ◆ 旧松澤家住宅古民家解説会..... (10/8)
 - ◆ 川柳と名所図会でたどる西ヶ原・飛鳥山
一日光御成道 滝野川コース..... (10/15)
 - ◆ 学び舎に響く歌声「北区の校歌」..... (10/16)
 - ◆ 北区遺跡学講座2022『道合遺跡』..... (10/22)
 - ◆ 『将門記』からひも解く武士たち..... (10/23)
 - ◆ 国史跡指定100年 一里塚をめぐる..... (10/29)
 - ◆ 文芸から読み解く北区の近代..... (10/30)
 - ◆ あすかやまのどんぐりでおもちゃをつくろう!..... (11/5)
 - ◆ 人はそこまで工夫を重ねるのか!豆腐万華鏡..... (11/12)
 - ◆ 文化財講演会「せんとうからまちを考える」..... (11/13)
 - ◆ 考古学講座 食の考古学..... (11/19)
 - ◆ ドイツ人から見た王子、江戸文化..... (11/20)
 - ◆ あすかやまのおちばでグリーティングカードをつくろう!..... (11/26)
 - ◆ 守貞がみた江戸の暮らし..... (11/27)
 - ◆ 人はそこまで工夫を重ねるのか!玉子万華鏡..... (12/10)
 - ◆ 考古資料を見て学ぶ..... (12/17)

冬 1月～3月

- 展示
- ◆ 小学校3年生対応展示「来て、見て、知って!昔の暮らし」展
..... (1/7～2/28)
 - ◆ 春期企画展
「I♥スーパー～昭和のスーパー奮闘記～」..... (3/21～5/14)
 - ◆ 春期企画展展示解説..... (3/26)

- 講座
- ◆ 敷居は高いけど、いつか行きたい?江戸高級料亭の世界..... (1/14)
 - ◆ 『万葉集』から見る風景..... (1/15)
 - ◆ 考古学講座(中級編)考古学を学ぶ-埴輪の話 その3-..... (1/28)
 - ◆ 第38回新聞から読む考古学-2022年下半期を振り返る-
..... (1/29)
 - ◆ 『下村記行』でみる江戸の暮らし..... (2/4)
 - ◆ 荒川とともに暮らす～岩淵水門を見に行こう!～..... (2/5)
 - ◆ 助一郎日記を読む 春の年中行事..... (2/11)
 - ◆ ケータリングはコンビニエントだ!花見弁当の世界..... (2/18)
 - ◆ 中世の土地支配を歩いて考える..... (2/26)
 - ◆ 北区遺跡学講座2022『御殿前遺跡』..... (3/4)
 - ◆ 農園芸と北豊島周辺..... (3/5)
 - ◆ 江戸のお仕事、紹介します ドリンク・素材系業界の巻..... (3/11)
 - ◆ 考古学講座 遺跡へ行こう春..... (3/18・19)

※催し物は仮称のものも含まれます。()内の実施日は予定です。
詳細は当館発行の催し物案内や北区ニュース、ホームページをご覧ください。

北区飛鳥山博物館だより ぼいす49

【発行日】 令和4年9月20日
【編集・発行】 北区飛鳥山博物館
〒114-0002 東京都北区王子1-1-3
TEL. 03-3916-1133
【印刷】 文明堂印刷株式会社